

NEWS



CONTENTS

[先端医工学診療部 遠隔手術指導の様子]

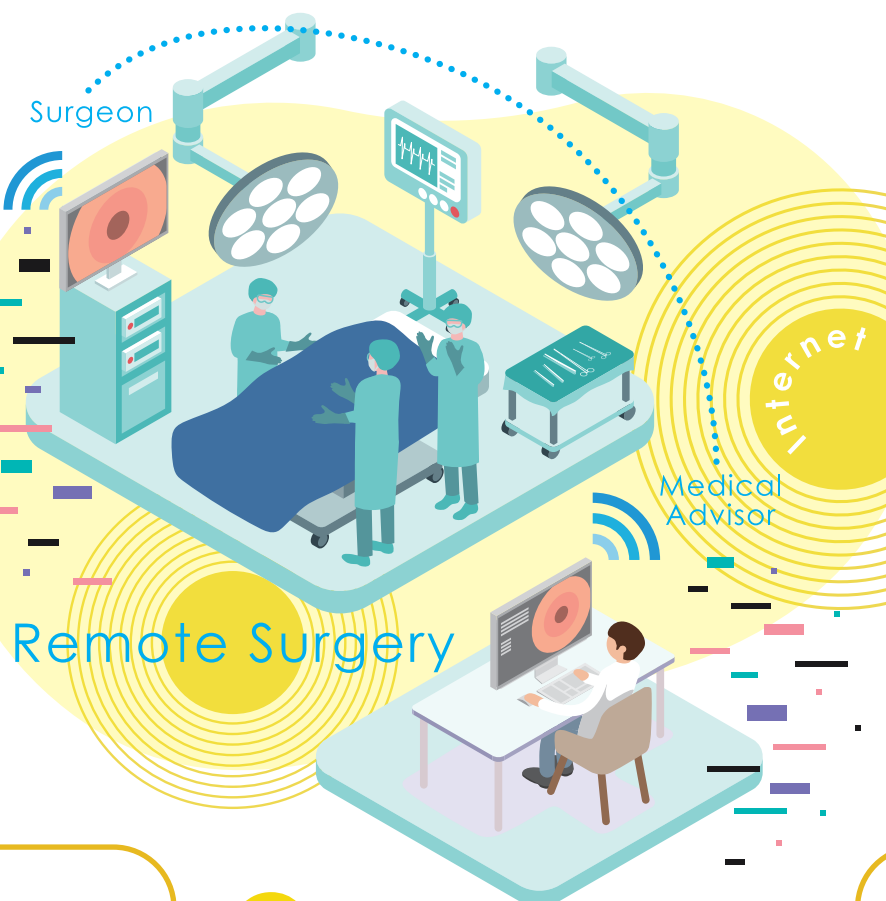
01 遠隔手術指導について

- 02 幅広い疾患に、専門性と総合力で向き合う
腎・高血圧・脳血管内科／消化管内科のチーム医療
- 03 歯科受診のむずかしい
小児の歯科治療
- 04 医学の「種」を、未来の「希望」へ。
創業プロデューサーの挑戦
- 05 婦人科がんに対する、より精密で
身体にやさしい放射線治療へ
- 06 九大病院トピックス
- 07 九大病院基金へのご寄附のお礼

遠隔手術指導について

沖 英次

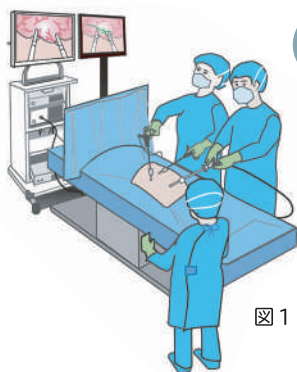
先端医工学診療部/教授



1 遠隔手術指導とは

遠 隔手術指導とは、病院の手術室で行われている手術に対し、手術室の外からリアルタイムにインターネットの回線を用いて指導を行うことです。最近の手術は腹腔鏡手術、胸腔鏡手術、ロボット支援下手術など、手術室内でも画面を見ながら鉗子の操作をすることも多く、その画面を通して遠隔地からの手術指導が可能となります。

実際に指導を行うためには、音声だけでなく画面上に指示をするための線や文字を記載する（アノテーションといいます）必要があります（下図1）。最近では、この遠隔アノテーションを行う機器が数多く開発されています。このため、遠隔地からでも正確に遅延なく手術の指導を行えるようになりました。九州大学では独自のシステムも開発しています。このシステムは指導者が遠隔地で画面上に記載した線や矢印などが、手術映像と一緒に追従して移動する画期的なものです。



リアルタイムでの遠隔手術支援



図1 遠隔指導 / 遠隔指導は、音声だけでなく遠隔地から画面上に線や矢印などを描いて指導します。

2 九州大学病院での遠隔指導

昨 今、将来の外科医不足が頻繁に報道されるようになってきました。とくに外科医不足は地方の病院で顕著です。その理由の一つとして、地方の病院では若手の外科医が鏡視下手術やロボット支援下手術などの急速に進歩する医療技術を習得しやすい環境が不足しがちであるということも考えられています。この状況を改善させるため、福岡県では、九州大学、久留米大学などと協力し、遠隔手術指導のシステムを積極的に導入することになりました。2025年には田川市立病院と九州大学病院の間でこのシステムが確立され、すでに10例以上の田川市立病院の手術を九州大学病院の遠隔指導協力のもと、安全に行うことができました（図2）。田川市立病院の若手医師へ大学病院からの直接指導も可能となりました。2026年以降も随時導入病院を増やしていく予定です。また、この遠隔指導は国際協力にも有効で、2025年8月にはモンゴルと日本の間で遠隔指導のデモも行いました。リアルタイムの遠隔指導が海外に向けて可能になれば、日本の外科医の技術輸出にもつながる考えられます。



図2 田川市立病院との遠隔指導

3 将来の遠隔手術に向けて

現 在日本で行われている手術では、手術室内のコクピットと呼ばれる操縦席から、患者とは少し離れてロボットを操作しています。したがって、そのコクピット操作をインターネット回線を用いて行えば、遠隔地からでも手術をすることが可能となります。これが遠隔手術です(図3)。

すでに中国を中心に、海外では1000例以上の患者さんの遠隔手術が行われています。日本でもこの遠隔手術の本格的な検討が数年前から日本外科学会を中心に行われてきました。九州大学は、日本最初の遠隔手術の検討を2003年に行っており、現在も日本外科学会と協力して遠隔手術の実現に向けた基礎的検討や実証研究を続けています。2023年には実際の遠隔手術を行うためのガイドラインも作成され、本年中には、いよいよ日本国内での実際の患者さんでの検討が始まります。数年以内に日本でも遠隔地にいる医師からロボットを使って遠隔で手術が受けられるようになるかもしれません。

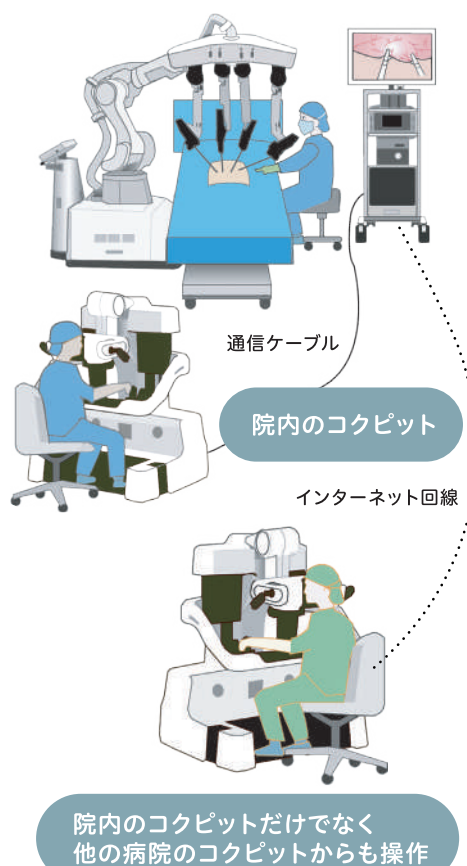


図3 遠隔手術 / ロボットを遠隔地から操作する



血液・腫瘍・心血管内科/
免疫・膠原病・感染症内科
診療科長

菊繁 吉謙

当科は、血液・腫瘍・心血管内科、および免疫・膠原病・感染症内科領域を担当する診療科です。私たちが診療を担当する領域は、患者さんの全身を診るということが非常に重要になってくる領域であります。多くの診療科の先生とも協力しながら、患者さん一人ひとりにとって専門性の高い良い医療を提供できるように、診療科として、皆で一丸となって、取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

●主たる 疾患

- 血液疾患
(白血病、悪性リンパ腫等)
- 悪性腫瘍(がん、肉腫等)
- 心臓血管疾患
- 膠原病・自己免疫疾患
- 感染症

●主たる 治療

- 薬物治療、化学療法
- 細胞療法
(造血幹細胞移植、CAR-T療法)
- カテーテル治療

幅広い疾患に、 専門性と 総合力で 向き合う



腎・高血圧・脳血管内科／ 消化管内科のチーム医療

大隈 俊明

病態機能内科学/医局長

専門性と総合力で 患者さんを支える総合内科

当科は、生活習慣病（高血圧・糖尿病）や、それに関連する脳・腎臓の病気、消化管（食道、胃、腸）の病気など、多くの方がかかりやすい疾患を診療しています。こうした幅広い疾患に対応するため、各分野の専門医が連携し、チーム医療を提供しています。また、総合内科として、他科に入院中の患者さんの診療にも協力しています。このような診療を通じて、からだ全体を見据えた医療を心がけています。



病棟での回診の様子



スタッフ集合写真

腎・高血圧・脳血管内科と 消化管内科の特色

当科では、腎臓病、高血圧、糖尿病など慢性に経過する疾患から、脳卒中など急に発症する疾患まで、全身の血管に関わるさまざまな病気を診療しています。救急疾患には24時間体制で対応し、生活習慣病では、治療の必要性を丁寧に説明し、生活の質（QOL）を重視しています。さらに、頭痛や認知症の進行予防にも取り組んでいます。

また、消化管の領域では、食道、胃、腸などの疾患に対し、専門的な検査と治療を行っています。内視鏡治療、カプセル内視鏡、小腸内視鏡などの先進的な機器を用いた診療に加え、クローン病など腸に炎症が起こる病気には、分子標的薬などの新しい薬による治療も提供しています。遺伝子検査などによる早期発見や予防にも力を入れ、外科とも連携しています。

世界へ発信する研究と、 一人ひとりに合った医療へ

当科のもう一つの柱が、60年以上にわたる久山町にお住まいの方々の健康を調べてきた「久山町研究」です。この研究は、かつて日本の死因第1位であった脳卒中の実態を明らかにする目的で始まり、現在では、生活習慣病全体や認知症へと研究テーマを広げています。さらに当科では、こうした地域での研究に加えて、脳卒中、糖尿病、腎臓病、高血圧などの患者さんを対象に診療情報を長期に追跡する大規模なコホート研究にも取り組んでいます。こうした研究は世界的にも高く評価されており、研究から得られた成果は日々の診療に活かされ、よりよい予防と治療に役立てられています。また、遺伝情報やAI技術も活用しながら、一人ひとりに合った医療の実現を目指しています。これからも患者さんと向き合い、誠実で信頼される医療を提供してまいります。

新任科長紹介

introduction



New department head

小児科 診療科長
酒井 康成

小児科は、こどもが生まれ
て成長し、大人になるまでの
過程を支える診療科です。

こどもがにこにこ笑顔を見せ
てくれると、親御さんも私
たちも幸せな気持ちになり
ます。

私たちのモットーは、お話を
よく聞き、よく診て、よく
行うことです。こどもの心と
体の健康全体に目を配り、
ご家族に寄り添う診療を心
掛けてまいります。お気軽に
お声がけください。

●主たる 疾患

早産・低出生体重児、染色体・
遺伝子異常症、小児がん、造
血器障害、脳腫瘍、免疫不全
症、血液凝固異常症、リウマ
チ・膠原病、重症感染症、先
天性心疾患、心筋炎・心筋症、
川崎病、先天性代謝異常症、
低身長症、糖尿病、ネフロー
ゼ・慢性腎炎、溶血性尿毒症
症候群、先天性腎尿路異常、
発達の遅れ、てんかん、急性
脳症、脊髄性筋萎縮症、神経
皮膚症候群

●主たる 治療

新生児・小児集中治療、薬物
治療、骨髄移植、CAR-T療
法、カテーテルによる心血管
再建治療、遺伝子治療

歯科受診の むずかしい小児の 歯科治療



廣藤 雄太

小児歯科・
スペシャルニーズ歯科/助教

小 児歯科・スペシャルニーズ歯科では、むし歯や歯並びの異常だけでなく、発達や全身状態に配慮した総合的な歯科治療を行っています。特に、一般の歯科医院では対応が難しい小児や障がいのある方の診療に力を入れており、小児専門の歯科医師や歯科衛生士、看護師がチームとして連携し、安心して歯科治療を受けられる体制を整えています。



全身麻酔を用いた歯科治療

低 年齢の小児やむし歯が多い小児、歯科治療に恐怖心を抱えている小児や障がいのある小児などで、通常の対応では歯科治療が困難な場合に行っています。多数の歯の治療を一度に行うことができ、痛みや恐怖を感じることなく治療を終えることが可能です。治療後は小児病棟で1泊入院し、全身状態を確認する体制を整えています。



全身麻酔下歯科治療の様子

手術前後や入院治療中における お口のチェックと病棟往診

手 術や小児がんの治療などで長期にわたる入院治療を受ける小児を対象に、手術前後や入院治療中に必要な歯科治療や口腔ケアを行っています。入院中で移動が難しい小児には、歯科医師や歯科衛生士が病棟へ訪問し、診査や口腔ケアを行っています。お口の中を清潔に保つことは、感染予防だけでなく、手術後の回復や全身状態の維持、合併症のリスク軽減にもつながるため重要です。



病棟往診の様子

小 児期からのお口の健康や口腔ケア習慣は将来の全身の健康のためにも重要です。

当科ではすべての小児が安心して受診できるように、設備とスタッフの対応の両面から、一人ひとりに寄り添った環境づくりに努めています。

新任科長紹介



New department head

医療技術部長
加藤 豊幸

このたび医療技術部長を拝命いたしました加藤豊幸と申します。専門は、血管造影検査・治療支援および整形外科領域のX線撮影で、放射線被ばく管理や放射線危機管理にも携わっています。

医療技術部は、12職種の医療技術職員がそれぞれの専門性を活かし、多職種と連携しながら、検査や治療、リハビリなどを通して患者さんの診療を支える組織です。

安全で質の高い医療の提供に努めるとともに、職員一人ひとりがやりがいと誇りを持って活躍できる環境づくりを進め、教育・研究を通じた人材育成にも取り組んでまいります。

● 12職種の医療技術職員

- 臨床検査技師
- 衛生検査技師
- 診療放射線技師
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 視能訓練士
- 臨床心理士
- 精神保健福祉士
- 臨床工学技士
- 歯科衛生士
- 歯科技工士

医学の「種」を、 未来の「希望」へ。

創薬プロデューサーの挑戦

戸高 浩司

ARO次世代医療センター
センター長代行

スタッフ集合写真

新しい薬の開発は、一人の研究者だけで成し得るものではありません。

映画プロデューサーが作品の制作を最後まで見届けるように、このセンターは基礎研究から産業化まで、医薬品等の開発を見守り支えています。

専門家を束ね、大学で見つけた医学の「種」を、実際に患者さんへ届く薬へと変えていく。それが私たち「ARO次世代医療センター」の使命です。その足跡は、確かな実績となっています。

例えば、肺の難病(慢性血栓塞栓性肺高血圧症CTEPH)への新薬。私たちは全国11の大学病院と連携して治験を主導し、国からの承認を実現しました。

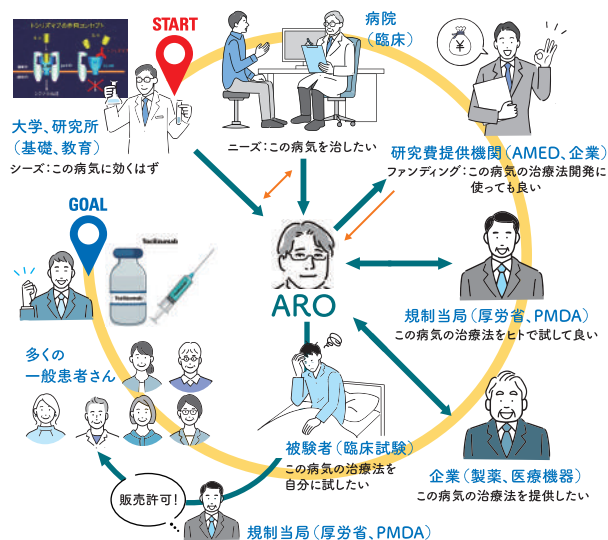
また、海外の最新治療薬を届ける「医療の時差(ドラッグ・ラグ)」をなくす取り組みも進めています。

私たちの視線はさらにその先、次世代を担う学生たちが新しい医療を次々と生み出す未来へ向いています。

病院を「治す場所」だけでなく、「希望が生まれる場所」へ。

すべては患者さんの願いを現実にするために、今日も医学の未来を情熱を持ってプロデュースし続けます。

AROは医薬品開発・臨床試験のプロデューサー



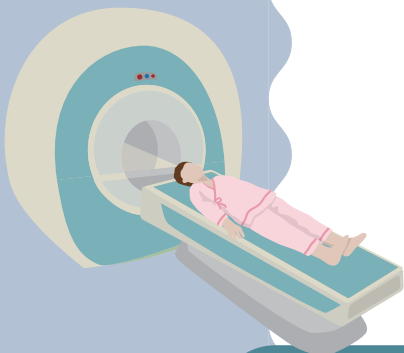
問い合わせ先／九州大学病院ARO次世代医療センター臨床研究推進室 Mail:tr-info@med.kyushu-u.ac.jp

婦人科がん に対する、より精密で 身体にやさしい 放射線治療へ

担当診療科:婦人科

三森 功士

別府病院長



九州大学病院別府病院では、2026年4月より婦人科悪性腫瘍に対する「遠隔操作密封小線源治療(RALS)」を開始しました。

RALSは主に子宮頸がん、子宮体がん、膣がん、外陰がんなどの治療に用いられる放射線治療の一つです。小さな放射線源(イリジウム)を病変の近くまで安全に送り込み、がんに集中的に放射線を照射する治療法です。病変およびその周囲に高い治療効果を届けながら、正常な組織への影響をできるだけ抑えることが期待できます。

当院では、RALS治療室内にCT装置を備えており、患者さんは治療中に部屋を移動する必要がありません。CT画像を用いた「三次元治療計画」により、がんの位置や周囲臓器を詳しく確認しながら、一人ひとりに合わせた高精度な治療を行っています。

また、治療準備から照射までをCT寝台上で一貫して行えるため、患者さんの身体的負担や移動による不安の軽減にもつながります。

婦人科がん治療においては、画像診断と放射線治療の進歩が治療成績向上に大きく寄与しています。九州大学病院別府病院では、婦人科と放射線科が密接に連携し、安全性と治療効果の両立を目指した医療を提供してまいります。

他の診療科同様に「地域で安心して高度ながん治療を受けられる体制づくり」を目指し、今後も診療体制の充実に努めてまいります。



処置室とCT室が同室に設置された放射線治療室



腫瘍細胞に高線量の放射線を照射し、副作用を軽減する高線量率小線源治療装置

問い合わせ先／九州大学病院別府病院(代表)0977-27-1600 ※「RALSに関すること」とお伝えください。

歌手の一青窈さんが小児医療センターを訪問

2026年2月6日、小児医療センターを、歌手の一青窈さんが訪問されました。一青窈さんが主導する音楽プロジェクトgigiは、闘病中の方や、支えるご家族、医療従事者に歌と元気を届けるため、一人でも多くの人の希望につながるよう、全国の病院でライブを行っています。

リクエストした曲や、名曲ハナミズキなど、艶やかな歌声で心に響く言葉を届けて下さり、治療を頑張る子ども達や保護者、医療スタッフにとっても明日の活力となる嬉しい時間となりました。



外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)更新審査で認証を受けました

外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)は、多言語による診療案内や異文化・宗教に配慮した対応など、外国人患者さんの受入れに資する体制を、日本医療教育財団が第三者的に評価することを通じて、医療を必要とするすべての人に、安心・安全な医療サービスを提供できる体制づくりを支援することを目的とした制度です。

九州大学病院は令和7年12月18日、19日に3回目となる更新審査を受審し、令和8年4月10日付け一般財団法人日本医療教育財団理事長名文書で認証通知を受け取りました。これからも、より良い受け入れ体制の整備に取り組んでまいります。



JMIP認定証

特別室S開設のお知らせ

このたび、当院では患者さんにより快適にお過ごしいただけるよう、2月1日より特別室Sを開設しました。新しい特別室は、落ち着いた色調で、福岡県の伝統工芸である組子をシンボルとしたインテリアを多く取り入れております。

個室Sは予約制となっているので、ご希望の方は担当医師または看護師にご相談ください。



■ 詳細はホームページをご確認ください。 <https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/nyuin/koshitsu/>

九大病院基金へのご寄附のお礼

九州大学病院基金へ多大な貢献をいただきましたことに感謝の意を表し、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。



2026年1月1日から4月30日までにご寄附いただいた方のご芳名を掲載しております(五十音順)。公表を希望されない方は、掲載していません。

■ 個人の皆様

Rtn Junya Ueda 様	稲吉 君江 様	岩崎 宏 様	大屋 隆博 様	梶谷 奈央 様	郡司 敏郎 様	貞方 康雄 様
佐藤 正三 様	渋谷 徹也 様	常吉百合子 様	長迫 有紀 様	西本 昭二・政子 様	肥山 英治 様	平山 友茂 様
古野 正彦 様	三上 律子 様	保田 和秀 様	安武 和俊 様	山田 洋三 様	米永 基子 様	

他19名(計39名)

■ 企業・団体等の皆様

みやざきレディースクリニック 様

(計1企業団体)

九州大学病院基金はクレジットカードもしくは金融機関からの振り込みでお受けします。

詳細はホームページをご覧ください <https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/info/kikin/>



Information

患者さんへのお知らせ



支払いがスマートフォンから簡単にできる「らくらく会計」をご存知ですか？

九州大学病院コンシェルジュ(アプリ)では、自動精算機の操作や現金での会計をせずに、アプリ内で支払いを完結させることができます。

クレジットカードを事前に登録することで、診察当日の朝、らくらく会計の利用確認の通知が届きます。「らくらく会計でお支払い」をタップしたら準備完了！

診察後に会計待ちをすることなく、スムーズにご帰宅いただけます。ぜひご利用ください。

九州大学病院
コンシェルジュ(アプリ)の
登録はこちら



▼iOS



▼Android



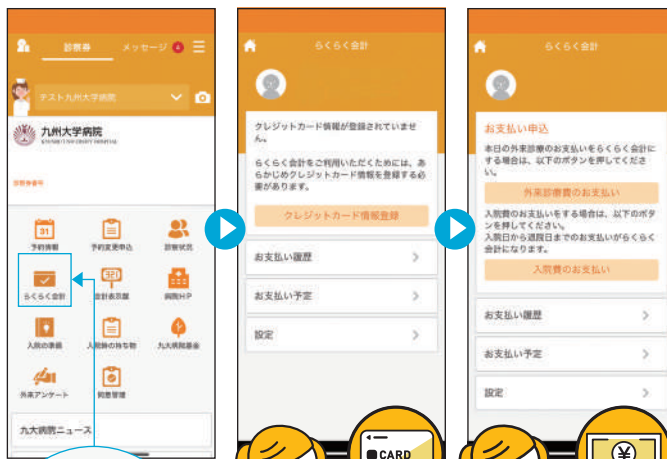
※AppleおよびAppleロゴは、Apple Inc.の商標です。
App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
※Google PlayおよびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。



九州大学病院
Kyushu University Hospital

2026年7月発行 企画・発行／九州大学病院広報委員会
福岡市東区馬出3-1-1 TEL:092-642-5205(総務課広報室)

九州大学病院コンシェルジュ(アプリ)トップ画面の「らくらく会計」アイコンをタップいただくと、らくらく会計画面に移動します。



クレジットカードを登録



らくらく会計でお支払い

※アプリダウンロードやご利用時には通信費が発生します。

患者さんからの声

(患者満足度調査、ご意見箱より)

らくらく会計を導入してくださってありがとうございます。毎月お薬があるので早く病院を出られて助かります。



らくらく会計やアプリでの予約確認、変更など便利で満足しています。



「領収書は決済完了の通知後(診察3日後)から、外来診療棟1階の総合案内にある領収書発行機にて、発行可能です。(平日:8時30分~17時 年末年始除く)

※12月末に1年分をまとめて発行することも可能ですが、年末は混雑が予想されます。

<https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>